

第 7 次広島県病院事業経営計画 骨子

第 I 章 計画の基本的な考え方

1 計画趣旨

第 6 次広島県病院事業経営計画（以下「前経営計画」という。）の計画期間が満了することから、これまでの取組の成果や課題の振り返りや外部環境の変化などを踏まえ、更なる経営強化の取組により持続可能な地域医療提供体制を確保していくため、目指すべき姿を明確にするとともに、その実現に向けた取組方策や目標を定め、職員が一丸となって取り組むべき指針として第 7 次広島県病院事業経営計画（以下「本経営計画」という。）を策定する。

2 計画期間

令和 6（2024）年度（1 年間（※））

※ 「高度医療・人材育成拠点基本計画」において、現県立病院の経営形態については、令和 7（2025）年度から地方独立行政法人による運営が計画されており、地方独立行政法人法で定める中期計画を新たに策定するため、本経営計画の期間は 1 年間とする。

3 計画の位置づけ

本経営計画は、総務省が「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン（以下「経営強化ガイドライン」という。）」（令和 4（2022）年 3 月 29 日付け総財準第 72 号総務省自治財政局長通知）により、病院事業を設置する各地方公共団体に策定を求める「公立病院経営強化プラン（以下「経営強化プラン」という。）」（図表 1）に相当するものである。

図表 1 公立病院経営強化プランの内容

<p>(1) 役割・機能の最適化と連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能 ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能 ・ 機能分化・連携強化 <p>各公立病院の役割・機能を明確化・最適化し、連携を強化。特に、地域において中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約して医師・看護師等を確保し、基幹病院以外の病院等は回復期機能・初期救急等を担うなど、双方の間の役割分担を明確化するとともに、連携を強化することが重要。</p> <p>(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師・看護師等の確保（特に、不採算地区病院等への医師派遣を強化） ・ 医師の働き方改革への対応 <p>(3) 経営形態の見直し</p> <p>(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組</p> <p>(5) 施設・設備の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備の適正管理と整備費の抑制 ・ デジタル化への対応 <p>(6) 経営の効率化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営指標に係る数値目標
--

（出典）総務省「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインの概要」から一部抜粋

第Ⅱ章 病院事業を取り巻く環境

1 医療を取り巻く環境

(1) 少子高齢化の進展

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本県の人口減少は今後も加速するものと予測され、総人口は令和7（2025）年に270.3万人、令和27（2045）年に232.8万人になると見込まれている。また、高齢者人口は令和27（2045）年には85.3万人に達し、更なる少子高齢化の進行に伴い、高齢化率は36%に達すると見込まれている。

(2) 医療の高度化

医療の高度化として、ゲノム診療の進歩や遺伝子治療薬の開発、ロボット技術の導入などにより、がんなどの難治性疾患に対する高度な治療が可能となっている。

(3) 医療費の増大

我が国の医療費は、高齢化の進展や医療の高度化などを背景に年々上昇しており、令和4（2022）年度の国民医療費は46.0兆円で、前年度に比べて1.8兆円の増加となっている。国においては、診療報酬の抑制を含め、医療費の増加を抑制する政策を打ち出している。

(4) 医師の働き方改革

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」により、令和元（2019）年度から時間外労働の上限規制が導入され、医師については適用が5年間猶予されていたが、その後の「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」に基づき、令和6（2024）年度から適用が開始されることとなった。

(5) 新興・再興感染症

公立病院は、新型コロナへの対応において、積極的な病床確保と入院患者の受入をはじめ、発熱外来の設置やPCR検査、ワクチン接種などで中核的な役割を果たしているところであり、感染症拡大時に公立病院の果たす役割の重要性が改めて認識された。新興感染症等への対応については、国の第8次医療計画における記載事項として「新興感染症等の感染拡大時の医療」が盛り込まれることとされている。

2 公立病院を取り巻く環境

(1) 公立病院の状況

全国の病院のうち、病院数で約11%、病床数で約15%を占める公立病院は、へき地における医療や、救急・災害・周産期など、不採算・特殊部門に係る医療の多くを担っているが、近年、病院数、病床数ともに、減少傾向にある。

(2) 公立病院経営強化ガイドライン

病院事業を設置する地方公共団体は、各地方公共団体が各々の地域と公立病院が置かれた実情を踏まえつつ、経営強化ガイドラインを参考に「役割・機能の最適化と連携の強化」「医師・看護師等の確保と働き方改革」「経営形態の見直し」「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」「施設・設備の最適化」「経営の効率化」の6つの視点からなる経営強化プランの策定が求められている。

(3) 経営形態の多様化

公立病院の経営形態は、総務省が平成19(2007)年12月に示した公立病院改革ガイドラインを契機とした各自治体の経営形態見直しなどにより、地方独立行政法人への移行や、地方公営企業法の適用拡大(全部適用)、指定管理者制度の導入等、経営形態の多様化が進んでいる。

また、医療機関の相互の機能分担や業務の連携を推進することを目的とした、地域医療連携推進法人制度が平成29(2017)年4月に施行され、医療法人や社会福祉法人、大学、公益法人、(地方)独立行政法人あるいは自治体など、様々な組み合わせによる法人の設立が全国で進められている。

3 広島県の医療状況

(1) 医療提供体制

ア 医療施設

本県の令和2(2020)年の病院数は237施設で、平成2(1990)年をピークに近年は減少傾向にあり、人口10万人当たりでは8.5施設で、全国の6.5施設を2.0上回っている。

本県の令和2(2020)年の一般診療所数は2,533施設で、近年、無床診療所は微増傾向、有床診療所は減少傾向だが、平成27(2015)年から令和2(2020)年にかけて無床診療所も減少に転じ、人口10万人当たりでは90.5施設で、全国の81.3施設を9.2上回っている。

イ 医師数

本県の令和2(2020)年の医師数は7,805人で、人口10万人当たりの医師数は278.8人となり、全国の269.2人を9.6上回っているが、近年、全国との差が縮まる傾向にある。

(2) 受療動向(年齢別の受療率)

入院、外来ともに、年齢が高くなるに従って受療率(人口10万人あたりの患者数)が高くなる傾向にある。また、入院受療率は15歳以上、外来受療率は0～4歳及び45歳以上の年齢区分で全国値を上回っている。

4 広島県の取組等

(1) 安心▷誇り▷挑戦ひろしまビジョン

未来を担う次の世代にしっかりとバトンを託すため、概ね30年後の「あるべき姿」を構想し、10年後の「目指す姿」とその実現に向けた取組の方向性を描き、県民の皆様を示すものであり、目指す姿として掲げる「安心」「誇り」「挑戦」の実現に向けて、様々な施策を相互に関連させ、相乗効果を創出する。

(2) 広島県保健医療計画

令和6（2024）年度を始期とする第8次広島県保健医療計画（以下「保健医療計画」という。）の基本理念は、第7次広島県保健医療計画の基本理念を継承し、質が高く切れ目のない医療提供体制と地域包括ケアシステムの一体的な構築を目指す地域医療構想を踏まえて、次のとおりとされている。

県内どこに住んでいても、生涯にわたっていきいきと暮らすことができるよう、
質が高く安心できる保健医療提供体制を地域包括ケアシステムと一体的に構築します。

(3) 広島県地域医療構想

県では、団塊の世代が75歳以上となり、人口の3割以上が65歳以上の高齢者となる令和7（2025）年を見据え、限られた医療・介護資源を効果的に活用するため、病床の機能の分化及び連携による、質の高い医療提供体制の整備、在宅医療の充実をはじめとした地域包括ケアシステムの確立、医療・福祉・介護人材の確保に関する施策の方向性を示すものとして、地域医療構想を策定した。

(4) 広島がん高精度放射線治療センター

広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）は、広島都市部の4基幹病院（広島大学病院、広島赤十字・原爆病院、広島市民病院、県立広島病院）の機能分担・連携を推進し、高度で効果的な医療提供体制の充実・強化を図るとともに、放射線治療医や医学物理士などの研修を受け入れて、人材育成を実施している。

第三章 病院事業の基本方針と各病院の目指す姿

1 病院事業の基本方針

令和4（2022）年3月には、総務省から経営強化ガイドラインが新たに示され、各地方公共団体が各々の地域と公立病院が置かれた実情を踏まえつつ個々の公立病院が地域医療構想などを踏まえて、地域において果たすべき役割・機能を果たすために必要となる医師・看護師などの確保と働き方改革、経営形態の見直し、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組、施設・設備の最適化、経営の効率化等に取り組むことを記載した、経営強化プランの策定を求められたところである。

この経営強化プランに相当する本経営計画においても、県全体における医療提供体制の確保に引き続き貢献し、県立病院としての役割を安定的かつ継続的に担うことが重要である。地域の医療機関等との連携を土台として、県立広島病院（以下「広島病院」という。）は高度急性期医療を中心に、県立安芸津病院（以下「安芸津病院」という。）は一般急性期医療を担いつつ地域包括ケアシステムの質の向上に貢献する。

2 各病院の目指す姿

各病院の目指す姿を設定し、それぞれの役割・機能を発揮する医療機能の強化などにより県民の皆様
に信頼される病院づくりに取り組む。

図表2 各病院の目指す姿

【広島病院】

目指す姿

三次保健医療圏（広島県全域）を視野に入れ、保健医療計画に沿った救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療などの領域を中心に、高度急性期機能の維持・強化を図るとともに、災害時における医療体制を整備することで、基幹病院としての役割を果たす。

地域医療で活躍する人材の確保・育成に取り組むことで、県全体の医療水準の向上に貢献する。

【安芸津病院】

目指す姿

地域住民の健康と暮らしを支えるため、二次救急医療の病院群輪番制病院体制や小児医療体制などの維持に努めることで、地域の中核病院としての役割を果たす。

地域の医療施設、介護施設、行政機関などと連携し、在宅療養支援の充実や予防医療の強化などを図ることで、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献する。

第IV章 県立病院の現状分析

1 県立病院の概要と役割

広島県病院事業は、地方公営企業法を全部適用し、県の基幹病院としての役割を担う広島病院と、地域の中核的病院としての役割を担う安芸津病院の2病院を設置・運営している。

2 病院事業の経営状況

(1) 収支の状況

病院事業全体の医業収支比率は、令和元（2019）年度まで病院事業全体で90%を超える水準にあったが、令和2（2020）年度以降は新型コロナの影響により入院患者数及び外来患者数が減少傾向にあり、給与費、材料費及び経費などの費用の増加により赤字が増加している状況である。

一方、経常収支比率は、令和2（2020）年度以降に新型コロナ患者の入院受入などの対応を進めたことにより、医業外収益として他会計補助金を受け入れた結果、100%を超える水準にある。

なお、各病院の前経営計画期間中における経常収支は、広島病院は令和元（2019）年度を除いて黒字となり、安芸津病院は令和3（2021）年度を除いて赤字となった。

図表3 収支状況

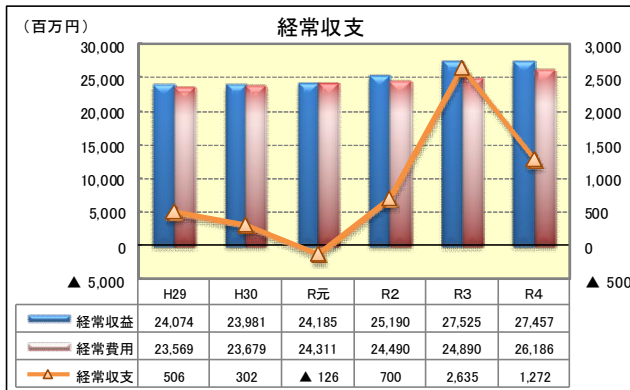
(単位：百万円)

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
病院事業収益						
医業収益	23,831	23,501	23,998	22,950	23,341	24,615
医業外収益	2,259	2,381	2,079	4,159	6,300	4,944
特別利益	1	3	4	391	1	5
合計	26,091	25,884	26,081	27,501	29,641	29,564
病院事業費用						
医業費用	24,990	25,149	25,760	26,011	26,520	27,950
医業外費用	603	565	571	496	447	386
特別損失	989	983	26	392	4	148
合計	26,583	26,697	26,357	26,900	26,971	28,484
医業収支	▲1,159	▲1,648	▲1,762	▲3,061	▲3,179	▲3,335
経常収支	496	167	▲254	602	2,674	1,223
純損益	▲492	▲813	▲276	601	2,670	1,080
経常収支比率	101.9%	100.6%	99.0%	102.3%	109.9%	104.3%
医業収支比率	95.4%	93.4%	93.2%	88.2%	88.0%	88.1%
病床稼働率	86.2%	78.4%	77.7%	69.5%	64.2%	66.7%

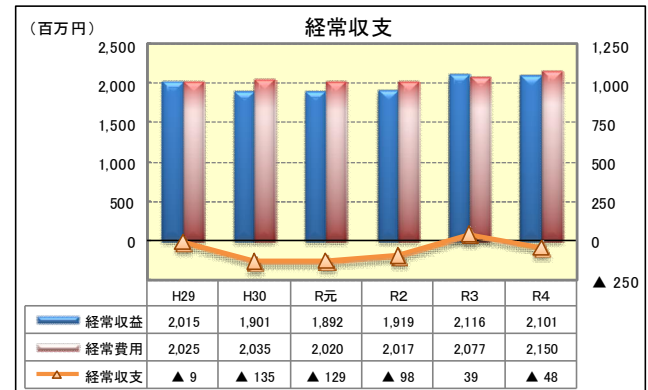
(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

図表4及び5 各病院の経常収支推移

【広島病院】



【安芸津病院】



(2) 広島病院

ア 入院患者数

新規入院患者数は、新型コロナの影響などにより令和2（2020）年度に減少した後に、回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準に戻っていない。また、延入院患者数は、新規入院患者数の状況に加え、平均在院日数の短縮に取り組んだことにより減少傾向にある。

イ 外来患者数

初診患者数は、新型コロナの影響などにより令和2（2020）年度に減少した後に、回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準に戻っていない。また、延外来患者数は、初診患者数の状況に加え、逆紹介の推進により減少傾向にある。

ウ 診療単価

入院単価は、診療報酬における施設基準・加算の新規取得や新型コロナ診療などにより増加している。また、外来単価は、高額医薬品の使用量の増などにより増加している。

(3) 安芸津病院

ア 入院患者数

新規入院患者数及び延入院患者数は、診療圏域の人口減少に加え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナの影響などにより減少している。

イ 外来患者数

延外来患者数は、診療圏域の人口減少に加え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナの影響などにより減少している。また、初診患者数は減少傾向である一方で、発熱外来受診者数の増などにより令和3（2021）年度から令和4（2022）年度にかけて増加している。

ウ 診療単価

入院単価は、地域包括ケア病床の活用や新型コロナ診療などにより増加している。また、外来単価は、高額医薬品の使用量の増などにより増加している。

3 前経営計画の取組状況

(1) 取組方針

前経営計画においては、「医療機能の強化」、「人材育成機能の維持」、「患者満足度の向上」、「経営基盤の強化」の4つの領域を取組の柱として掲げ、取組を着実に進めてきた。

(2) 主な取組及び成果（指標ごとの年次目標及び実績は巻末資料参照）

	取組実績
広島病院 【重点的取組】 ○医療機能の強化・患者満足度の向上 ○地域完結型医療への取組 ○業務改善・経営基盤の強化 ○医療を担う人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急医療について、県全体を俯瞰する救命救急センターとして、救急車受入台数は目標を上回り、三次救急患者数も増加した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 救急車受入台数 H29:6,066台→R4:7,757台（目標6,500台） ○ 成育医療について、総合周産期母子医療センターとして、1,000g未満出生新生児患者数の受入県内割合5割超を維持するとともに、緊急母体搬送受入件数や生殖医療科採卵件数が増加した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緊急母体搬送受入件数 H29:165件→R4:187件（目標125件） ◆ 生殖医療科採卵件数 H29:284件→R4:402件（目標300件） ○ がん医療について、ゲノム診療科を設置（R4年度～）し、がんゲノム医療提供体制の強化によりがんゲノム検査件数が増加した。また、「がんゲノム医療拠点病院」の指定（R5年度～）を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ がんゲノム検査件数 H29:7件→R4:189件（目標180件） ○ 新型コロナ対応について、「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、広島県内医療機関の中で最大数の専用病床（93床（R4年度））を確保し、中等症以上の感染患者を中心とした入院受入及び感染妊婦の分娩を県内の医療機関で最も多く行った。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 入院受入患者数 R4:延9,507人（うち中等症以上4,895人） ◆ 感染妊婦分娩数 R4:45件
安芸津病院 【重点的取組】 ○地域包括ケア構築への貢献 ○地域の医療資源の維持 ○業務改善・経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケア病床について、長期入院ニーズに対応し、21床から29床に8床増床（H29年度～）するとともに、訪問診療・看護による在宅療養支援の充実や健（検）診など、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 健（検）診件数 H29:2,715件→R4:2,940件（目標2,790件） ○ 二次救急医療の病院群輪番制病院体制や小児科診療を維持するなど一定の医療水準を維持しながら、骨粗鬆症外来などの専門外来（H29年度～）や整形外科のアウトリーチクリニック（R元年度～）を実施するなど、地域で必要とされる医療を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 専門外来受診患者数 H29:328人→R4:1,058人（目標950人） ○ 新型コロナ対応について、「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、入院患者の受入、発熱外来の実施及び東広島市のワクチン接種業務への協力など病院全体で対応を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 入院受入患者数 R4:延842人（うち中等症以上582人） ◆ 発熱外来患者数 R4:3,495人 ◆ ワクチン接種実施数 R4:3,421件

(3) 前経営計画の取組総括

ア 広島病院

令和4（2022）年度実績において、取組項目総数64のうち目標達成数は36であり、目標達成率としては、56%となった。

イ 安芸津病院

令和4（2022）年度実績において、取組項目総数32のうち目標達成数は12であり、目標達成率としては、38%となった。

ウ 新型コロナの影響

病院全体で新型コロナ対応を行ったことにより、県立病院として政策医療を担う使命を果たした一方で、新型コロナの感染拡大に伴い、一般病床などの新型コロナ専用病床への転換や新型コロナ患者に対応する人員確保のために一部の病棟の稼働を一時的に休止することなどを余儀なくされた結果、新規入院患者数や手術件数などの診療実績が落ち込み、医業収益が悪化するなど、病院経営への影響が生じている。

V章 病院事業における課題

1 病院事業の課題

(1) 広島病院

広島病院は、県全体を視野に入れた救急医療・脳心臓血管医療・成育医療・がん医療を重点4分野に掲げ、重症度や緊急性が高く、難易度の高い疾患に対応できる病院としての医療機能の強化を行い、目標指標の多くを達成するなど、成果を上げてきた。

一方、患者数の推移や経営状況、取り巻く環境変化を分析すると、次のような課題がある。

ア 医業収支

新型コロナ対応を開始した令和元（2019）年度から令和2（2020）年度にかけて医業収支が悪化したが、コロナ禍前の水準に回復していないため、早期に経営改善を図る必要がある。

イ 患者数シェア

広島二次医療圏に500床以上の高度急性期病院が5つ存在する中で、広島病院は人口が多い広島市居住者における高度急性期・急性期の患者数のシェアが低い状況であるため、患者の掘り起こしが必要である。

ウ 紹介患者数

高度急性期・急性期の患者が多い広島市、特に南区及び中区の医療機関からの紹介件数が減少しているため、患者だけではなく医療機関からも選ばれる必要がある。

(2) 安芸津病院

安芸津病院は、少子高齢化・人口減少が進展する地域での医療のモデルを目指し、予防医療の強化や在宅療養支援の充実など、域包括ケアの仕組みの構築に積極的に貢献する病院として、地域と一体となって地域住民の健康を支える取組の拡大に努めてきた。

一方、患者数の推移や経営状況、取り巻く環境変化を分析すると、次のような課題がある。

ア 医業収支

平成30年7月豪雨災害により、平成30（2018）年度から医業収支が悪化するとともに、新型コロナの影響もあり、平成29（2017）年度の水準に回復していないため、早期に経営改善を図る必要がある。

イ 耐震化対応

旧棟について、耐震性能が基準を下回っていることから、できるだけ早く、耐震化対応を進める必要がある。

ウ 医療資源

安芸津病院が立地する二次救急医療圏の竹原地区では、3病院で病院群輪番制病院を維持しているとともに、東広島市安芸津町（以下「旧安芸津町」という。）・大崎上島町には、小児科を標榜する診療所が1機関しかないなど、医療資源が限られた地域に安心を提供するため、機能を維持していくとともに、地域に求められる医療を提供していく必要がある。

第VI章 実行計画

1 公立病院経営強化ガイドラインの6つの事項

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

地域医療構想及び地域包括ケアシステム構築を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

ア 広島病院

救命救急センター（第三次救急医療）、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院及びがんゲノム医療拠点病院等として、県全体を視野に入れた基幹病院としての役割を果たし、高度急性期機能及び急性期機能を提供する。

イ 安芸津病院

病院群輪番制病院（第二次救急医療）として、旧安芸津町における唯一の入院機能を有し、地域の中核病院としての役割を果たし、急性期からかかりつけまでの総合的な機能を提供する。

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

ア 医師・看護師等の確保

臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実を図り、県内外からの若手を中心とした医師の確保に積極的に取り組むとともに、臨床研修指導医の養成に注力することなどにより、将来の医療を担う人材の育成に努める。

イ 医師の働き方改革への対応

令和6（2024）年4月から適用される医師の時間外労働の上限規制に対応するため、医師の確保による診療体制の充実を図るとともに、適切な労務管理により長時間となっている時間外労働の縮減等の勤務環境の改善が図られるよう取組を推進する。

(ア) 広島病院

時間外労働の上限については、原則としてA水準（年間960時間以下）とするが、三次救急医療を担っており地域医療の確保に必要な医療機関であるとともに、一部の医師において時間外・休日勤務時間が年間960時間を超えていることから、一部の診療科については、令和17（2035）年までの暫定措置が認められるB水準（年間1,860時間以下。ただし実際に定める36協定の上限時間以内となる。）の指定を受けたところであり、できる限り早い時期にすべての診療科においてA水準を目指す。

(イ) 安芸津病院

年間960時間以上の時間外・休日勤務を行っている医師はいないが、A水準を維持するために広島病院の取組を参考にしながら対応策を講じていく。

(3) 経営形態の見直し

本県においては、「高度医療・人材育成拠点ビジョン」の整備が進められており、令和7（2025）年4月に地方独立行政法人を設立し、新病院（整備前の広島病院、JR広島病院を含む）及び安芸津病院を一体的に運営する予定である。

(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

高度・専門医療及び政策医療を提供する県立病院としての役割を果たすために、新興及び再興感染症（以下「新興感染症等」という。）の流行状況など、県全体あるいは地域の医療情勢に応じて必要な役割を担うため、平時から関係部局と連携を図り、保健医療計画及び広島県感染症予防計画に沿った予防と発生時の速やかな対応に努める。

(5) 施設・設備の最適化

ア 施設・設備の適正管理と整備費の抑制

(ア) 広島病院

高度医療・人材育成拠点の整備を見据え、病院施設の改修や設備の更新などを計画的に行うことにより、資金収支の均衡を図りながら、施設・設備の適正管理と整備費の抑制に取り組む。

(イ) 安芸津病院

旧棟の耐震性能が公共施設に最低限必要とされる基準を下回っていたことから、耐震性能を確保するとともに、将来の経営を持続可能なものとするため、令和元（2019）年9月に広島県病院経営外部評価委員会内に医療関係者や地元自治体職員などで構成する安芸津病院耐震化対応検討専門部会を設置して議論を重ねてきたが、コロナ禍により議論が停滞していた。

令和6（2024）年度においては、耐震化対応の具体化を図るため、病院の規模、機能、具体的な手法、概算事業費などを整理した、基本構想及び基本計画を策定する。

イ デジタル化への対応（各病院共通）

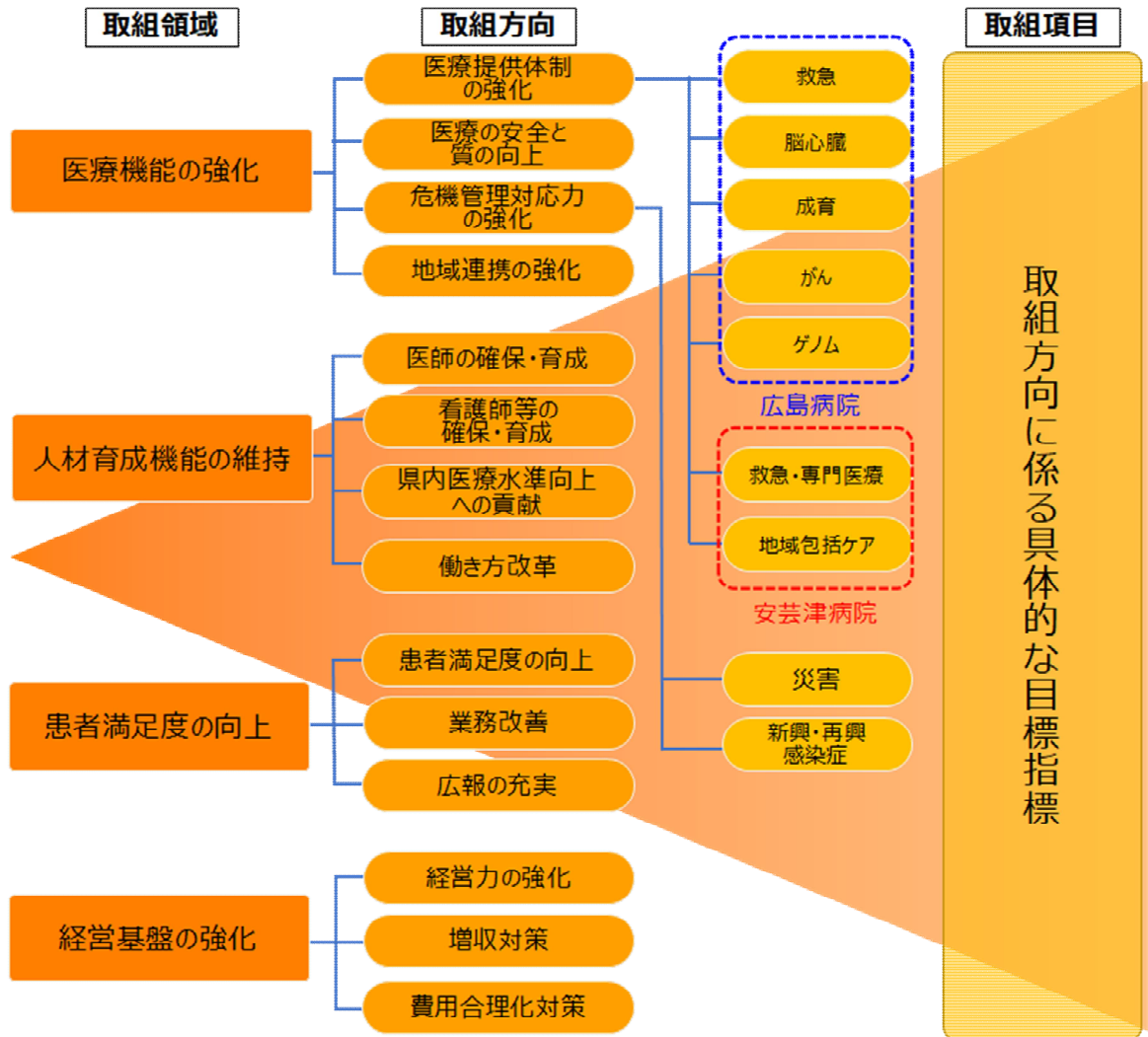
電子カルテの円滑な運用を図るとともに、地域医療機関とのHMネットをはじめとしたICTを活用したネットワークの構築、携帯端末などの活用を含めた医療DX、働き方改革並びに病院経営の効率化を推進するとともに、また、マイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）について、院内掲示等により普及啓発に努める。

なお、デジタル化に当たっては、国が作成した「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」などを踏まえ、情報セキュリティ対策を徹底する。

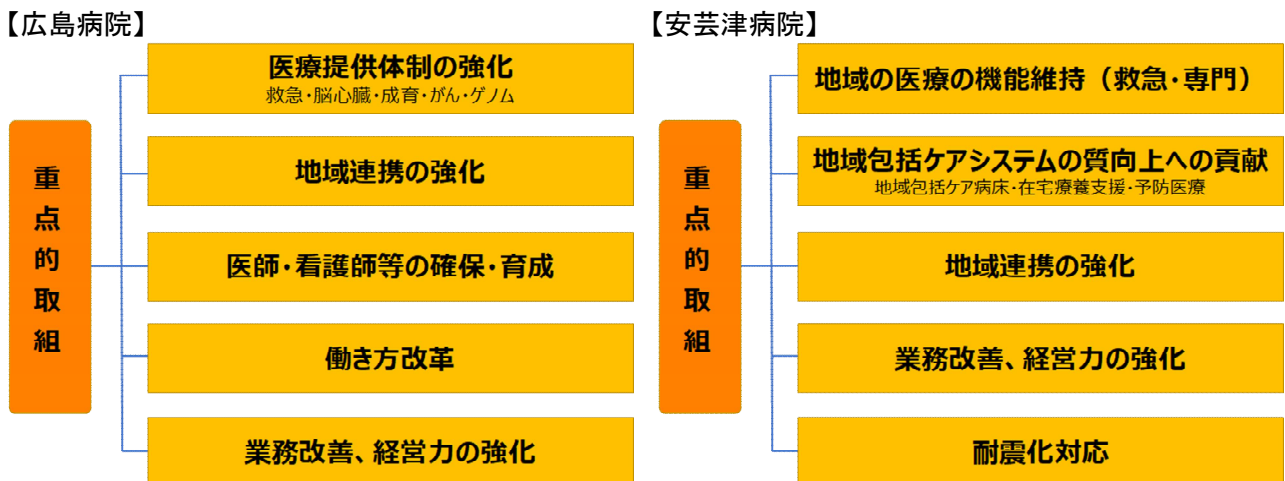
(6) 経営の効率化等

県立病院では、目指す姿の実現に向け、現行経営計画に経営強化ガイドラインにおいて要請されている事項を踏まえ、病院事業全体としての取組領域、取組方向及び取組項目とともに、各県立病院において重点的取組を設定し、具体的な取組を行う。(図表6、図表7)

図表6 取組体系図



図表7 各病院の重点的取組



2 収支計画

(1) 病院事業全体の収支計画

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	250,981	228,278	227,031	202,884	187,044	194,286		
外来延患者数	362,844	347,100	330,427	295,378	301,577	301,318		

(単位:百万円(税込))

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4		
病院事業収益	医業収益	23,831	23,501	23,998	22,950	23,341	24,615	
	うち入院収益	16,703	16,288	16,609	15,762	15,631	16,816	
	うち外来収益	6,432	6,512	6,691	6,525	7,045	7,089	
	医業外収益	2,259	2,381	2,079	4,159	6,300	4,944	
	うち長期前受金戻入	519	522	488	482	519	538	
	特別利益	1	3	4	391	1	5	
合計	26,091	25,884	26,081	27,501	29,641	29,564		
病院事業費用	医業費用	24,990	25,149	25,760	26,011	26,520	27,950	
	うち給与費	13,142	13,124	12,994	13,257	13,217	14,006	
	うち材料費	7,296	7,315	7,958	7,886	8,244	8,420	
	うち経費	3,161	3,173	3,298	3,401	3,578	3,962	
	うち減価償却費	1,242	1,398	1,363	1,380	1,385	1,435	
	医業外費用	603	565	571	496	447	386	
	うち支払利息	414	367	317	268	217	164	
	うち負担金	91	99	157	135	130	122	
特別損失	989	983	26	392	4	148		
合計	26,583	26,697	26,357	26,900	26,971	28,484		
経常損益	496	167	▲ 254	602	2,674	1,223		
特別損益	▲ 988	▲ 980	▲ 22	▲ 1	▲ 3	▲ 143		
収益的収支差引	▲ 492	▲ 813	▲ 276	601	2,671	1,080		

【調整中】

資本的収入	企業債	1,091	700	623	641	810	1,744
	負担金等	775	839	860	1,261	958	738
	その他	9	7	3	14	9	6
合計	1,874	1,545	1,486	1,916	1,777	2,488	
資本的支出	建設改良費	1,115	784	659	1,031	927	1,794
	企業債償還金	2,096	2,335	2,447	2,498	2,473	2,243
	その他	193	193	193	126	122	0
合計	3,404	3,312	3,299	3,655	3,522	4,037	
資本的収支差引	▲ 1,530	▲ 1,767	▲ 1,813	▲ 1,739	▲ 1,745	▲ 1,549	

単年度資金収支	▲ 107	▲ 893	▲ 1,068	▲ 86	2,062	685
年度末内部留保	3,937	3,045	1,976	1,890	3,952	4,545

<繰入金>

一般会計繰入金 合計	2,640	2,628	2,614	4,973	6,865	5,371
収益的収入繰入金 計	1,865	1,789	1,753	3,802	5,947	4,635
資本的収入繰入金 計	775	839	860	1,171	918	736

経常収支比率	101.9%	100.6%	99.0%	102.3%	109.9%	104.3%
医業収支比率	95.4%	93.4%	93.2%	88.2%	88.0%	88.1%
給与費/医業収益	55.1%	55.8%	54.1%	57.8%	56.6%	56.9%
材料費/医業収益	30.6%	31.1%	33.2%	34.4%	35.3%	34.2%
病床稼働率	86.2%	78.4%	77.7%	69.5%	64.2%	66.7%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

(2) 各病院の収支計画

ア 広島病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	217,436	199,610	197,928	176,276	168,290	176,816		
外来延患者数	295,372	282,318	267,446	242,171	249,808	250,461		

(単位:百万円(税込))

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4
病院事業収益						
医業収益	22,131	21,924	22,413	21,458	22,080	23,274
うち入院収益	15,651	15,321	15,632	14,848	14,980	16,037
うち外来収益	5,910	6,029	6,215	6,073	6,567	6,659
医業外収益	1,943	2,056	1,772	3,732	5,445	4,183
うち長期前受金戻入	467	474	439	434	465	478
特別利益	1	3	4	352	1	0
合計	24,075	23,983	24,189	25,543	27,525	27,458
病院事業費用						
医業費用	22,980	23,128	23,758	24,011	24,459	25,814
うち給与費	11,961	11,921	11,829	12,091	12,039	12,786
うち材料費	6,972	7,000	7,642	7,588	7,938	8,132
うち経費	2,765	2,775	2,889	2,972	3,120	3,460
うち減価償却費	1,140	1,301	1,258	1,276	1,273	1,320
医業外費用	588	551	552	479	431	372
うち支払利息	413	366	317	268	217	164
うち負担金	85	93	147	126	123	115
特別損失	924	907	26	354	4	122
合計	24,492	24,586	24,336	24,844	24,894	26,308
経常損益	506	302	▲126	700	2,635	1,272
特別損益	▲923	▲904	▲22	▲1	▲3	▲121
収益的収支差引	▲417	▲603	▲147	699	2,632	1,150

【調整中】

資本的収入	企業債	1,043	592	564	594	739	1,433
負担金等	675	737	765	1,133	845	706	
その他	9	7	3	14	9	6	
合計	1,727	1,337	1,332	1,741	1,593	2,144	
資本的支出	建設改良費	1,065	618	596	968	825	1,478
企業債償還金	2,022	2,259	2,384	2,434	2,406	2,180	
その他	102	102	102	69	64	0	
合計	3,189	2,979	3,081	3,471	3,296	3,658	
資本的収支差引	▲1,462	▲1,642	▲1,749	▲1,730	▲1,703	▲1,514	

単年度資金収支	▲95	▲660	▲940	▲45	1,991	694
---------	-----	------	------	-----	-------	-----

<繰入金>

一般会計繰入金合計	2,216	2,200	2,195	4,492	5,912	4,567
収益的収入繰入金計	1,541	1,463	1,430	3,401	5,089	3,863
資本的収入繰入金計	675	737	765	1,091	823	703

経常収支比率	102.1%	101.3%	99.5%	102.9%	110.6%	104.9%
医業収支比率	96.3%	94.8%	94.3%	89.4%	90.3%	90.2%
給与費/医業収益	54.0%	54.4%	52.8%	56.3%	54.5%	54.9%
材料費/医業収益	31.5%	31.9%	34.1%	35.4%	35.9%	34.9%
病床稼働率	85.1%	78.1%	77.3%	68.8%	65.7%	69.0%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

イ 安芸津病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	33,545	28,668	29,103	26,608	18,754	17,470		
外来延患者数	67,472	64,782	62,981	53,207	51,769	50,857		

(単位:百万円(税込))

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4
病院事業収益						
医業収益	1,700	1,576	1,585	1,492	1,261	1,341
うち入院収益	1,052	967	977	914	652	779
うち外来収益	522	482	476	451	478	429
医業外収益	316	324	307	427	855	761
うち長期前受金戻入	52	48	49	48	55	59
特別利益	0	0	0	39	0	5
合計	2,015	1,901	1,892	1,958	2,116	2,106
病院事業費用						
医業費用	2,010	2,021	2,002	2,000	2,061	2,136
うち給与費	1,181	1,204	1,165	1,166	1,178	1,219
うち材料費	324	315	316	298	306	288
うち経費	396	398	410	429	457	501
うち減価償却費	102	97	105	103	112	115
医業外費用	15	14	19	17	16	14
うち支払利息	2	1	1	0	0	0
うち負担金	6	6	10	8	8	7
特別損失	66	76	0	39	0	26
合計	2,090	2,111	2,020	2,056	2,077	2,176
経常損益	▲ 9	▲ 135	▲ 129	▲ 98	39	▲ 48
特別損益	▲ 66	▲ 76	0	0	0	▲ 21
収益的収支差引	▲ 75	▲ 211	▲ 129	▲ 98	39	▲ 70

【調整中】

資本的収入	企業債等	48	107	59	48	71	311
	負担金	100	101	95	128	113	32
	その他	0	0	0	0	0	0
	合計	147	208	154	175	184	344
資本的支出	建設改良費	50	166	63	63	102	316
	企業債償還金	74	75	63	64	67	63
	その他	91	91	91	57	57	0
	合計	215	333	217	184	226	379
	資本的収支差引	▲ 68	▲ 125	▲ 63	▲ 9	▲ 41	▲ 35

単年度資金収支	▲ 12	▲ 233	▲ 128	▲ 42	72	▲ 9
---------	------	-------	-------	------	----	-----

<繰入金>

一般会計繰入金 合計	424	428	418	481	953	804
収益的収入繰入金 計	324	327	324	401	858	772
資本的収入繰入金 計	100	101	95	80	95	32

経常収支比率	99.5%	93.4%	93.6%	95.2%	101.9%	97.7%
医業収支比率	84.6%	78.0%	79.2%	74.6%	61.2%	62.8%
給与費／医業収益	69.5%	76.4%	73.5%	78.2%	93.5%	90.9%
材料費／医業収益	19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	24.3%	21.5%
病床稼働率	93.8%	80.1%	81.1%	74.2%	52.3%	48.7%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

【巻末資料】現行経営計画の目標指標達成状況（平成29（2017）年度～ 令和4（2022）年度）

《平成29（2017）年度～ 令和4（2022）年度》

【広島病院】（年度ごとに目標を達成した項目について「◎」としている。）

目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(1) 医療機能の強化								
I 医療提供体制の強化								
救急	【重点指標】 1) 救急車受入台数	5,500台 6,066台	◎ 5,700台 6,089台	◎ 5,850台 6,049台	◎ 6,000台 5,736台	◎ 6,000台 6,611台	◎ 6,500台 7,757台	◎ 8,000台
	2) 三次救急（ホットライン）受入率	96.2%	92.4%	91.6%	91.7%	91.7%	100% 90.0%	100%
	3) 二次医療機関からの重症患者受入応需率	-	95.0%	94.0%	95.9%	95.3%	100% 92.0%	100%
脳心臓	【重点指標】 4) 脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	3,004人	2,882人	2,990人	2,940人	2,902人	3,000人 2,767人	3,000人
	5) 急性心筋梗塞PCI件数	100件	93件	98件	131件	112件	130件 100件	130件
	6) 急性期脳卒中に対するtPA治療件数	27件	30件	34件	23件	27件	40件 30件	35件
	7) 急性期脳卒中に対する血管内カテーテルによる血栓回収療法件数	24件	17件	29件	32件	33件	30件 44件	◎ 40件
	8) 未破裂、破裂動脈瘤の治療件数	73件	71件	73件	78件	60件	75件 59件	65件
	9) 心大血管手術件数	85件	62件	55件	75件	58件	75件 66件	80件
	10) 急性期リハビリテーション件数 （脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心大血管疾患等リハビリテーション件数の合計）	48,829件	44,487件	38,963件	44,108件	34,346件	45,000件 40,200件 37,655件	41,800件
	11) 1,000g未満出生新生児患者数受入の県内割合	62.5%	52.5%	57.4%	55.1%	51.9%	50% 65.5%	◎ 54%
	【重点指標】 12) 緊急母体搬送受入件数	150件 165件	◎ 150件 160件	◎ 150件 131件	150件 107件	131件 123件	125件 187件	◎ 150件
	13) 生殖医療科採卵件数	330件 284件	330件 283件	330件 282件	330件 241件	300件 257件	300件 402件	◎ 280件
14) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数 ※21) 遺伝カウンセリング算定件数の内数	0件	2件	1件	105件	110件 114件	◎ 110件 52件	65件	
15) 生殖医療科で妊娠が成立した妊婦が産婦人科へ院内紹介された件数	109件	107件	125件	73件	105件	100件 76件	135件	
がん	16) 院内がん登録件数(暦年)[新規]		1,903件	1,965件	1,850件	1,860件	2,166件	2,100件
	【重点指標】 17) 手術支援ロボットによる手術件数[新規]					15件	123件	200件
	【重点指標】 18) 内視鏡的粘膜下層剥離術件数[新規]	109件	156件	168件	153件	205件	234件	200件
	【重点指標】 19) がんゲノム検査件数	7件	21件	77件	109件	120件 154件	◎ 180件 189件	◎ 230件
その他	20) 全身麻酔手術件数	4,400件 4,571件	◎ 4,400件 4,742件	◎ 4,400件 4,663件	◎ 4,400件 4,217件	4,500件 4,365件	4,500件 4,648件	◎ 4,800件
	21) 遺伝カウンセリング算定件数	0件	26件	20件	125件	218件	120件 139件	◎ 230件
	22) DPC/PDPS入院期間Ⅰでの退院例のパス適用率、DPC/PDPS入院期間Ⅱでの退院例のパス適用率	I :20.3% II :46.1%	I :22.0% II :52.2%	I :23.1% II :54.3%	I :26.1% II :52.8%	I :35.4% II :55.3%	I :40% II :50% I :33.9% II :57.5%	I :35% II :60%

目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標	
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績		
(1) 医療機能の強化									
II 医療の安全と質の向上									
チーム医療の推進	23) 認知症ケア加算算定件数	2,622件	2,123件	1,813件	2,267件	2,500件 3,313件	2,500件 4,823件	◎	3,500件
	24) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,212件	3,751件	3,832件	3,891件	3,800件 3,648件	3,800件 3,595件		3,800件
	25) 栄養サポートチーム加算算定件数	940件	868件	1,132件	797件	660件	1,100件 1,127件	◎	1,100件
	26) 糖尿病透析予防指導管理料算定件数	36件	24件	0件	10件	16件	10件 14件	◎	20件
	27) 周術期口腔機能管理料算定件数	8,663件	6,275件	6,020件	6,049件	6,344件	6,000件 6,765件	◎	7,500件
	28) 摂食機能療法算定件数	1,133件	1,062件	445件	596件	758件	600件 823件	◎	1,000件
	29) 精神科リエゾンチーム加算算定件数	26件	97件	88件	84件	91件	100件 97件		100件
看護の質向上	30) 転倒・転落発生率 レベル2以上 (軽度の処置を必要とした)	-	-	0.0023	0.00047	0.0003以下 0.00029	0.0003以下 0.0003	◎	0.0003
	31) 既に有していた褥瘡の改善率	-	-	69.0%	71.7%	71.0%	72% 70.4%		72%
	32) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	-	-	-	7,109件	8,000件 8,628件	8,000件 9,265件	◎	9,000件
	33) がん患者指導管理料算定件数(ロ※) ※がん患者指導料のうち看護師関与分	283件	324件	293件	341件	251件	400件 271件		350件
その他	【重点指標】 34) 入院期間Ⅱ 超え割合	28.0%	27.6%	26.7%	25.6%	25% 21.2%	20% 22.8%	◎	23%
	35) インフルエンザ・COVID-19アウトブレイク件数	1件	1件	1件	0件	2件	0件 13件		0件
III 危機管理対応力の強化									
	36) 院内災害対応訓練延参加者数	-	-	106人	2,191人	2,500人 3,621人	2,500人 3,263人	◎	2,500人
	37) 当院企画の災害訓練・研修会への延参加医療機関数	-	-	9施設	10施設	64施設	18施設 190施設	◎	50施設
IV 地域連携の強化									
	38) 患者紹介率	83% 97.7%	85% 93.4%	87% 93.5%	90% 88.1%	93% 93.8%	93% 94.3%	◎	93%
	39) 患者逆紹介率	100% 114.1%	105% 125.6%	107% 120.6%	110% 120.7%	120% 141.3%	125% 148.4%	◎	125%
	40) 院内研修への地域医療従事者の参加者数	450人 484人	450人 620人	450人 567人	450人 170人	450人 677人	160人 188人	◎	160人
	41) 地域への教育活動件数	390件	257件	289件	196件	280件 334件	280件 465件	◎	280件

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(2) 人材育成機能の維持							
V 医師の確保・育成							
42) 専門研修プログラム専攻医数	-	広病 0人 他 31人	広病 1人 他 32人	広病 3人 他 35人	広病 5人 他 22人	広病2人 他 40人 広病 5人 他 21人	広病4人 他25人
43) 臨床研修指導医新規受講者数	6人	6人	7人	0人	7人 11人	◎ 7人 ◎ 8人	◎ 7人
44) 初期臨床研修医採用マッチ率	100%	100%	100%	100%	100%	◎ 100% ◎ 100%	◎ 100%
45) 初期臨床研修医広島県内定着率	81.3%	85.7%	94.1%	88.9%	100%	◎ 94.1% ◎ 87.5%	◎ 100%
46) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数[新規]	-	-	-	-	-	◎ 7人	◎ 5人以下
47) 医師一人当たりの時間外勤務時間[新規]	-	-	-	-	-	◎ 32.8h	◎ 対前年度比 10%縮減
VI 看護師等の確保・育成							
48) 看護師の離職率(定年退職を除く)	-	-	◎ 6.64%	◎ 6.69%	◎ 3.62%	◎ 6.60% ◎ 5.72%	◎ 6.60%
49) 認定・専門・特定行為研修修了看護師数領域別確保数 【17領域37名(新規2名)、(特定行為研修者がん薬物療法(1)心不全看護(1))】	1人	2人	1人	0人	2人 1人	◎ 2人 ◎ 2人	◎ 3人
50) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的資格取得者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)	147人	129人	114人	19人	◎ 60人 ◎ 95人	◎ 60人 ◎ 109人	◎ 100人
51) 学生実習の受け入れ実績 (まん延防止等重点措置以上の対策期間中以外は原則受け入れる)	426人	478人	437人	69人	◎ 440人	◎ 100人 ◎ 779人	◎ 450人
VII 県内医療水準向上への貢献							
52) 医師・看護師等の講師派遣回数	◎ 200回 ◎ 390回	◎ 200回 ◎ 257回	◎ 200回 ◎ 289回	◎ 200回 ◎ 203回	◎ 200回 ◎ 589回	◎ 200回 ◎ 603回	◎ 600回
(3) 患者満足度の向上							
VIII 患者満足度の向上							
53) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ割合	◎ 78.2%	◎ 68.4%	◎ 88.6%	◎ 65.0%	◎ 56.7%	◎ 75% ◎ 78.3%	◎ 75%
54) 患者アンケートの満足度(入院・外来)	◎ 97.3%	◎ 96.4%	◎ 97.1%	◎ 97.0%	◎ 97.5% ◎ 97.3%	◎ 97.5% ◎ 97.4%	◎ 97.5%
IX 業務改善							
55) TQM手法習得者数(累積)	◎ 219人	◎ 329人	◎ 431人	◎ 541人	◎ 652人	◎ 719人 ◎ 795人	◎ 841人
X 広報の充実							
56) 取材協力件数	◎ 4件	◎ 4件	◎ 6件	◎ 8件	◎ 10件 ◎ 34件	◎ 10件 ◎ 22件	◎ 10件
57) プレスリリース件数	◎ 1件	◎ 0件	◎ 0件	◎ 0件	◎ 5件 ◎ 2件	◎ 5件 ◎ 4件	◎ 5件

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(4) 経営基盤の強化							
X I 経営力の強化							
【重点指標】	16,920人	17,000人	17,000人	17,000人	17,000人	16,900人	17,900人
58) 新規入院患者数	17,313人	16,834人	16,825人	15,624人	15,895人	16,421人	
59) 病床稼働率(700床)	87.7%	88.1%	87.9%	88.1%	70.0%	66.0%	70.3%
	85.1%	78.1%	77.3%	71.5%	65.9%	69.2%	
X II 増収対策							
【重点指標】	68,846円	69,200円	69,600円	70,000円	83,029円	89,800円	92,800円
60) 入院単価	71,980円	76,753円	78,977円	82,902円	89,013円	90,377円	
61) 特定入院料の算定率(ICU)					90%	90%	90%
	72.1%	85.7%	90.3%	85.9%	92.6%	92.7%	
62) 特定入院料の算定率(HCU) ※救命救急入院料算定病床					51%	51%	55%
	48.9%	43.4%	51.3%	49.6%	57.6%	57.2%	
X III 費用合理化対策							
63) 材料費/医業収益	30.3%	30.4%	30.7%	31.1%	36.1%	36.1%	36.1%
	31.5%	31.9%	34.1%	35.7%	36.8%	34.6%	
64) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額					35,000千円	160,000千円	180,000千円
	-	-	32,170千円	54,876千円	60,758千円	157,189千円	

【安芸津病院】（年度ごとに目標を達成した項目について「◎」としている。）

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(1) 医療機能の強化							
I 医療提供体制の強化							
1)手術件数	380件 344件	380件 326件	380件 278件	380件 262件	290件 211件	290件 245件	290件
2)内視鏡検査件数	1,850件 1,693件	1,900件 1,650件	1,950件 1,698件	2,000件 1,505件	1,900件 1,387件	1,900件 1,405件	1,900件
【重点指標】 3)救急搬送受入件数	370件 ◎ 401件	370件 349件	370件 ◎ 406件	370件 359件	370件 301件	370件 401件	◎ 420件
【重点指標】 4)専門外来受診患者数 (糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア)	328人 328人	575人 575人	665人 665人	754人 754人	770人 ◎ 954人	950人 ◎ 1,058人	◎ 1,080人
【重点指標】 5)健(検)診件数	2,337件 ◎ 2,715件	2,337件 ◎ 2,838件	2,337件 ◎ 3,254件	2,337件 ◎ 2,743件	2,790件 ◎ 3,019件	2,790件 ◎ 2,940件	◎ 2,790件
【重点指標】 6)訪問看護新規者数	28人 28人	27人 27人	27人 27人	30人 30人	28人 28人	32人 17人	32人
7)地域包括ケア病床における在宅復帰率	80.0% ◎ 89.2%	80.0% ◎ 81.7%	80.0% ◎ 84.9%	80.0% ◎ 89.1%	85.0% ◎ 78.6%	85.0% ◎ 81.5%	85%
II 医療の安全と質の向上							
8)転倒・転落発生率(レベル2以上)	0.00027 0.00027	0.00045 0.00045	0.00055 0.00055	0.00019 0.00019	0.00020 0.00048	0.00020 0.00034	0.00020
9)入退院支援加算算定件数	607件 607件	729件 729件	834件 834件	769件 769件	800件 676件	800件 620件	800件
10)せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	- -	- -	- -	573件 573件	553件 553件	580件 541件	580件
11)在宅患者支援病床初期加算算定件数	- -	- -	- -	694件 694件	762件 762件	830件 ◎ 1,104件	◎ 830件
III 危機管理対応力の強化							
12)感染症に関する研修参加率	- -	- -	- -	- -	100% 100%	100% 100%	◎ 100%
IV 地域連携の強化							
13)介護支援連携指導料算定件数	120件 ◎ 127件	120件 ◎ 123件	120件 ◎ 228件	120件 ◎ 124件	200件 47件	200件 31件	200件
14)患者紹介率	18.8% 18.8%	17.9% 17.9%	20.4% 20.4%	21.5% 21.5%	23.0% 17.7%	23.0% 17.2%	23.0%
15)患者逆紹介率	23.4% 23.4%	26.1% 26.1%	28.4% 28.4%	29.7% 29.7%	30.0% 28.6%	30.0% 21.5%	30.0%

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(2) 人材育成機能の維持							
V 医師の確保・育成							
16) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数	7人 10人	7人 8人	7人 8人	7人 8人	8人 8人	8人 7人	7人
17) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数[新規]	-	-	-	-	-	0人	0人
18) 医師一人当たりの時間外勤務時間[新規]	-	-	-	-	-	199時間	対前年度比 10%縮減
VI 看護師等の確保・育成							
19) 認定・専門看護師数	0人	0人	0人	0人	1人 1人	1人 0人	1人
20) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)	1人	1人	0人	0人	4人	2人	1人
VII 県内医療水準向上への貢献							
21) 地域開放型研修会の参加者数 ※(地域への講師派遣を含む。)	186人	194人	153人	0人	30人	25人	50人
(3) 患者満足度の向上							
VIII 患者満足度の向上							
22) 患者アンケートの満足度(入院)	95.0% 97.9%	95.0% 97.1%	95.0% 97.4%	95.0% 99.1%	98.0% 94.8%	98.0% 93.2%	98.0%
23) 電話再診件数	0件	0件	11件	188件	250件 363件	200件 436件	350件
IX 業務改善							
24) TQM手法習得者数	20人	33人	23人	0人	0人	10人 4人	10人
25) 5S活動参加率	-	-	-	-	91.0%	70.0% 84.0%	80.0%
X 広報の充実							
26) HP閲覧件数	-	-	-	-	16,500件 22,673件	16,500件 25,236件	23,000件
(4) 経営基盤の強化							
XI 経営力の強化							
【重点指標】 27) 新規入院患者数	1,192人	1,056人	1,112人	988人	830人	1,000人 800人	1,000人
28) 病床稼働率(98床)	93.8%	80.1%	81.1%	74.4%	73.6% 65.7%	90.0% 59.2%	90.0%
XII 増収対策							
【重点指標】 29) 地域包括ケア病床稼働率	98.0% 101.0%	98.0% 93.1%	98.0% 89.9%	98.0% 89.7%	98.0% 63.3%	98.0% 74.5%	98.0%
30) 入院単価	31,358円	33,737円	33,561円	34,356円	34,207円	35,000円 44,598円	37,990円
XIII 費用合理化対策							
31) 材料費/医業収益	19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	22.8% 24.3%	22.8% 21.5%	22.8%
32) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額	-	-	-	-	150千円	300千円 975千円	760千円